



西大寺わんわんパトロール隊

インタビュー 会長：坂本 虎男

西大寺学区情報	世帯数	4,588 世帯	人口	9,654 人	高齢化率	29.1%
---------	-----	----------	----	---------	------	-------

■活動のきっかけ

平成19年1月、車の運転中、ラジオを聞いていると、岡山県警察本部で岡山県わんわんパトロール隊の隊員を募集しており、「犬を飼っている方ならだれでも入れる。」との放送が聞こえ、面白そうだなと思い、応募したのが始まりです。

その年の7月岡山県教育委員会、岡山県警、岡山県共催の「安全・安心まちづくりを勧めるリーダー、コーディネーターを養成する講座」に参加しました。この中で、県下の優秀な安全・安心まちづくり活動をしているリーダーの方々の発表を聞かせていただき、他の地域の方々が、これほどまでにして、安全・安心まちづくりに努力しているのだということを知ることができました。

■強い意志と行動

このとき私は、「今まで社会から受けてきた恩恵を次の世代へ還元する」という強い意志を、行動をもって示すことがこれからの私の人生の在り方だと心に決めました。

それからは、犬を散歩している人に声をかけ仲間を集め、平成20年3月、「西大寺の子どもは西大寺の宝だ。地域の子どもは地域の住民の手で守ろう。」を合言葉に、120名の有志を集め「西大寺わんわんパトロール隊」を結成し、出発式を行うことができました。

■活動内容

【子ども見守り活動】

①全日、登下校時における子どもを不審者、犯罪者から守るため通学路の巡回パトロー

ル、横断歩道や信号設置場所での見守り強化活動を行っています。

②学校から要請があった場合、校外学習や山登り等で同行パトロールをします。



【地域安全マップ教室学習支援活動】

常に大人が子どもに付き添い、子どもの安全確保につとめることが最良だと思いますが、家庭、学校、地域がどんなに巧みに連携して子どもを守るシステムを作り上げたとしても、そこには当然、限界があります。

そのため、子ども自身を犯罪に強い人間に育てることが先決、大切ではないかと考え、立正大学の小宮信夫教授考案の「地域安全マップの作り方」の考え方と手法を小学生に伝えることがきわめて有益であり、有効であると思いました。

地域安全マップの作り方を指導できる指導員を養成し、現在この活動を進めています。

この「地域安全マップの作り方」は小学校4年生を対象に、数日掛け学校の授業の中で行われるもので、まず、マップの作り方の基礎的な考え方をしっかり学習します。



次に犯罪が起こりそうな場所、危険な場所や安全な場所を見つけに、町の中をグループで探検し、発見した場所は、教室へ帰り、地域安全マップとしてまとめます。模造紙に道路や建物を書き込み、色紙等を使い、なぜそこが危険なのか、安全なのかの理由を書き込みます。

そして、完成した地図について発表し、できるだけ大勢の人と情報を共有することで、どのような場所で犯罪が起こりやすいかが、理解できるようになります。

■活動の効果や参加者の声

【子ども見守り活動】

数年前まで小学生が学校帰りに赤信号で横断歩道を渡る事案が何件か起きていましたが、令和元年度、令和2年度と2年続けて0件でした。

また、不審者の学校帰りの子どもへの声掛けが昨年度2件ほどありましたが、不審者に対する子どもの対応が良く、事なきを得ています。日頃の学校の先生の配慮、わんわんパトロール隊の学校支援活動が少しは役に立っていたのではと思っています。

【地域安全マップ教室学習支援活動】

4年生の子どもたちから次のような感想を受けています。

「今まで何も考えずに遊んでいた公園も危険な場所があることを知りました。もし遊ぶときは、友達と一緒に遊び、今までよりも注意して遊びます。」

「ここで学習したことは、自分の人生、自分の命にかかわるものなので、5年になっても大人になっても絶対に忘れません。」

「グループの人みんなと協力して、立派な安全マップができたことが一番うれしかったです。」

■工夫していること

①見守り隊会員には無理なく活動してもらうために、当番は義務にしません。

②年1回発行している新聞「西大寺わんわんパトロールニュース」で防犯や見守り活動の強化の周知を図っています。



■運営費

岡山市の補助金（安全・安心ネットワーク活動支援補助金）／赤い羽根ボランティア・団体NPO活動支援事業／学区からの補助金

■ネットワーク

- ・西大寺学区安全安心ネットワーク
- ・西大寺ふれあいネット

■今後の展望

西大寺の学校へ通う子どもたちに、「この西大寺のまちは安全なんだ」という言葉をプレゼントできるように活動を継続させていきたいです。

また、「できることを、できる人が、できるときにははじめよう」これが活動を継続させる秘訣だと思っています。

